

## 国土交通省生産性革命本部（第5回会合） 議事概要

1. 日程：平成29年3月30日（木） 17：00～17：40
2. 場所：合同庁舎3号館 幹部会議室
3. 出席者：大臣、副大臣、大臣政務官、事務次官、技監、国土交通審議官、大臣官房長、総括審議官、技術総括審議官、建設流通審議官、物流審議官、危機管理・運輸安全政策審議官、サイバーセキュリティ・情報化審議官、技術審議官、総括監察官、官庁営繕部長、総合政策局次長、公共交通政策部長、国土政策局長、土地・建設産業局長、都市局長、水管理・国土保全局長、水資源部長、道路局長、住宅局長、大臣官房技術審議官（鉄道）、自動車局長、海事局次長、港湾局長、航空局長、北海道局長、政策統括官、国際統括官、観光庁長官、気象庁長官、運輸安全委員会事務局長、海上保安庁長官、国土地理院長

4. 議事：「生産性革命プロジェクト20」の具体化状況について

### 5. 議事概要

○各プロジェクトの具体化の状況について、道路局、港湾局、都市局、土地・建設産業局、総合政策局、水管理・国土保全局、航空局、大臣官房技術調査課、住宅局、海事局、観光庁、鉄道局、自動車局、気象庁より、資料2に沿って説明。

○本部長である石井国土交通大臣より、以下のとおり発言  
（石井大臣）

昨年3月に国土交通省生産性革命本部を立ち上げまして、ちょうど1年が経ちます。先進的な取組として20のプロジェクトを選定いたしましたが、それぞれご報告をいただいて、いずれも着実に前進していると感じられました。元々生産性革命プロジェクトは生産性向上によって経済成長に寄与するということが最も重要な目的として掲げられておりましたけれども、加えて、一昨日には、政府の「働き方改革実行計画」がとりまとめられましたけれども、この働き方改革の実現をするためにも生産性の向上が重要であることが改めて認識されておりまして、引き続き、それぞれのプロジェクトを強力に進めていってほしいと思

ます。

今日のそれぞれのプレゼンテーションでも感じましたが、本格的な人口減少社会に突入し、財政制約が深刻化する中で、1つ目に新技術の開発や社会実装を推進していくこと、2つ目に既存ストックを徹底的に活用していくこと、3つ目に制度やその運用を柔軟に見直していくことなど、一言で端的に申し上げれば、「小さなインプットでできるだけ大きなアウトプットを生み出す」という工夫を行うことの大切さが、改めて組織として共有されつつあると感じています。

今後は、こうした生産性革命の基礎にある考え方を、国土交通行政の施策全般に着実に浸透させていきたいと考えております。現在、各部局で平成30年度に向けた施策の検討、夏の概算要求に向けてですね、検討に着手していると思いますが、今後、副大臣・政務官の指導などを頂きながら、しっかり進めていただきたいと思っております。

その上で、私からは、3点具体的な指示したいと思っております。

第1に、「小さなインプットでできるだけ大きなアウトプットを生み出す」という観点から、工夫度の高い施策が進められるよう、中堅・若手職員のアイデアを積極的に取り入れるなど、職員一丸となって知恵を絞っていただきたい。若い人のほうが、我々よりも色々柔軟なアイデアがたくさんあると思っておりますから、中堅・若手職員を活用していただきたいと思っております。

第2に、第4次産業革命ですとか、あるいはシェアリングエコノミーといった新たな経済活動が広がる中で、このような「イノベーション」を国土交通分野の施策にどのように活かしていくべきか、これまで以上に積極的な検討をお願いしたいと思っております。

最後に3点目ですが、個々の施策に対する関心を高め、意見を頂戴しながら、より良いものにしていくという意味で、引き続き、効果的な広報活動や経済団体等との意見交換に取り組んでいただけるようお願いしたいと思っております。以上であります。

以上